

立木乾燥実証実験事業

ぎんの木で家づくり推進事業（普及啓発活動支援事業）

＝立木乾燥実証実験事業とは？＝

<目的>

- 木材の乾燥を立木のまま行い、木材の乾燥費用と伐出費の軽減を図れるか実験します。
- 木材の材質低下を防ぎ、県産材の需要拡大に貢献できるか実験します。
- 製材業の人工乾燥費用を節減し、化石燃料の使用量を減らすことができるか検証します。

<実験内容>

- 市有林(加子母地内)において、「三ツ緒伐り」(みつおぎり)等3つのタイプ別に立木乾燥の効果を実験します。
- 実験木は、3ヶ月毎に数本ずつ伐採し、木材の含水率を量るほか、伐採後の木材の状態を調査します。

<実験結果:中間報告>

- 生木の伐採木に比べ、立木乾燥は50～60%含水率が低下、伐採後の乾燥も生木に比べ速いことが解ってきました。
- 立木林内乾燥により、伐採木が通常より軽く、搬出作業が軽減されることが期待できます。
- 木材市場の原木不足時期(6～7月)に乾燥材の出荷が可能になることが期待されます。
- 立木乾燥実験の3タイプでは、鉛筆型の含水率が下がる傾向にあります。(右図参照)

<平成23年度>

- 立木乾燥の経年変化の状況調査と人工乾燥費用等の節減効果を検証します。
- 今回の実証実験は、今年度を区切りとして実験結果を取りまとめ公表します。

<伐り型>

木の三方から幹に穴を開け、芯をくり抜き、立ち枯らしさせる方法(三ツ緒伐り)や他には、エンピツ型や四角型などの方法で実験を行っています。



立木乾燥実験の3つのタイプ

